

令和6年(2024)

10.1 [火] —

11.30 [土]

第4回
特別展

中世の港の にぎわい

博多

▽
尼崎

▽
京都

開館時間 午前9時～午後5時

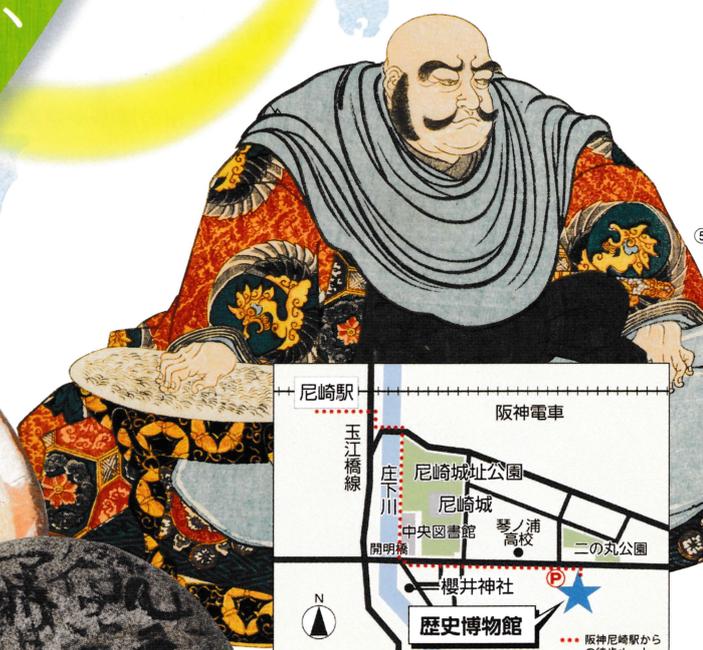
※入館は午後4時30分まで

休館日 月曜日

(ただし祝日の場合は開館し、直後の平日が休館)

会場 尼崎市立歴史博物館 3階
企画展示室・展示学習室

観覧料金 無料



電車・バス ▶ 「阪神尼崎駅」
南口から南東へ徒歩10分
車 ▶ 玉江橋線開明橋
交差点から東へ約500m
隣接する市内城内駐車場
(有料)をご利用ください



 尼崎市立歴史博物館 
AMAGASAKI CITY MUSEUM OF HISTORY

〒660-0825 兵庫県尼崎市南城内10番地の2
電話 06-6489-9801
(歴史博物館 文化財担当)
FAX 06-6489-9800

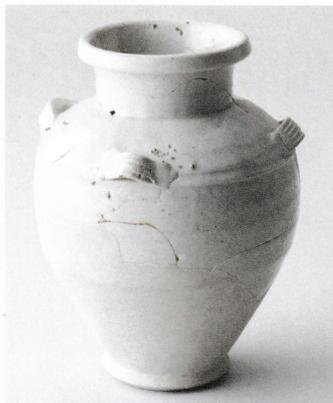


① 白磁四耳壺(尼崎市大物遺跡出土) ② 黄釉鉄絵盤(尼崎市大物遺跡出土)
③ 経石(尼崎市大物遺跡出土) ④ 墨書土器「丁綱」(尼崎市大物遺跡出土)
⑤ 国芳 名高百勇伝 平清盛(当館蔵)

尼崎市立歴史博物館 第4回特別展



白磁四耳壺(福岡市博多遺跡群出土)



白磁四耳壺(尼崎市大物遺跡出土)



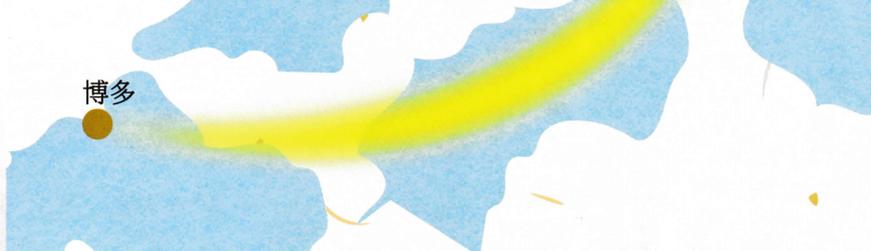
黄釉鉄絵盤(尼崎市大物遺跡出土)



白磁四耳壺(京都市平安京跡出土)



黄釉鉄絵盤(福岡市博多遺跡群出土)



黄釉鉄絵盤(京都市平安京跡出土)

中世の尼崎は、全国から集まる物資を京都などの大消費地に送る中継地として栄えていました。しかし、尼崎に大きな流通拠点があつたことは、あまり知られていません。

尼崎では奈良時代以降、海岸線の南進に伴い、神崎川河口部に新地(長洲・杭瀬・大物)が形成され、淀川水系で都とつながつた諸港湾が誕生しました。なかでも、平安時代後期に港湾として発達した大物は平氏政権全盛期以降、中国(宋)との貿易品や国内の年貢などが行き交う物資流通の一大中継地であつたと考えられています。

今回の特別展では、大物遺跡から出土した貿易陶磁器や瀬戸内海沿岸地域を中心とした全国各地の土器等、さまざまな資料とともに、同じく物資の集散地であつた九州の博多や京都の遺跡から出土した貿易陶磁器等を交えて、中国(宋)、博多、尼崎、京都を結ぶ日宋貿易や、瀬戸内海を中心とした国内流通を支えた港と尼崎のつながりについて振り返ります。

あわせて、中世の尼崎が現在と同じく交通の要衝として発展を遂げ、人々が行き交う活気あふれる歴史をもつていたことや、尼崎が豊富な文化財が現存する歴史豊かなまちであることを広く紹介します。



白磁(尼崎市大物遺跡出土)



経石と木簡(尼崎市大物遺跡出土)

記念講演会

「富が動く、人が動く 中世流通の考古学」

日 時：10月13日(日) 午後2時～午後4時
 講 師：佐藤 亜聖 氏(滋賀県立大学人間文化学部教授)
 会 場：尼崎市立歴史博物館 3階 講座室
 申 込：10月5日(土)から電話・FAXで受付
 受講料：無 料 定 員：80名(先着順)

ワークショップ 一人形劇

ペープサート「名月姫-尼崎で生まれた姫のお話-」

尼崎で生まれた名月姫と兵庫の港にまつわるふしぎな伝説を、当館のれきし体験学習ボランティアがペープサート(うちわ型紙人形)で紹介します。

ギャラリートーク

日 時：10月6日(日)、10月26日(土)、11月10日(日)、
 11月23日(土・祝) 各日午後2時～午後3時
 会 場：尼崎市立歴史博物館 3階 企画展示室・展示学習室
 参加料：無 料
 申 込：事前申込不要
 定 員：各20名(先着順)

日 時：11月10日(日) 午後3時～午後4時
 会 場：尼崎市立歴史博物館 3階 講座室
 参加料：無 料
 申 込：事前申込不要
 定 員：20名(先着順)

